



12月定例会

第161号

平成29年2月1日

議会だより

行政報告…………… 2～4
町政のそこが聞きたい…… 5～9
（一般質問）
決算審査特別委員会…………… 10～11
委員会などの動き…………… 12～15



お互いに仲良く楽しく励まし合い、常に心身の健康を保ち、
教養を高め、会員の福祉の増進に努めます。

標津寿会

代表 今トヨ子 会員数 19名
年会費 3000円 設立 昭和43年
例会 第1水曜日 午前9時30分

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

秋サケ漁 昭和47年以来の大不漁 健康で元気な稚魚づくりを!



金澤瑛町長の行政報告

基幹産業の状況は

酪農業

今年の一季草は、6月に入り低温と雨の日が多く収穫が心配され、春先5月の好天と6月下旬からの天候回復により、概ね順調に収穫することができた。

しかし、8月に入り数度の台風上陸や長雨の影響により、中旬からの二季草の収穫作業が大幅に遅れる状況となった。何とか収穫量は最低限確保できる状況だが、質の低下が心配されている。

また、台風と長雨により圃場整備作業が出来ず、草地更新の大幅な遅れ、又は翌年への繰越しを余儀なくされており、これにより次年度の牧草収量と生乳生産量への影響が懸念

されている。

一方、今年4月から11月末までの8ヶ月間における生乳生産量は、対前年比3・8%増の6万7739トンとなり、本年度末で初の10万トン台に達する見込みとなった。

農業生産額については、生乳生産量の増加、乳価の増額改定、乳用牛・肉用牛の価格高騰などもあり、11月末現在で、対前年比9・1%増の7億6800万円と、順調に推移している。

しかしながら、TPP協定（環太平洋連携協定）等、国際関係の先行きが見えない状況、農協制度改革、新たな乳価補給金制度の導入など、将来に不安を抱える状況となっており、

さらに農業従事者の高齢化の進行と深刻な後継者問題、長時間労働・労働力不足などの多くの課題を抱えており、その対策が急務となっている。

水産業

今年の秋サケ漁は、

本町においては予想を大きく下回る、対前年比36%減の2987トン（小定置網漁を含む）の水揚げに留まり、昭和47年の2160トン以来の大不漁となり、大変深刻な結果となった。秋サケ水揚額は、対前年比20%減の18億3200万円となったが、これは不漁が始まる前の平成19年と比較して42%程度となっており、依然として非常に厳しい状況が続いている。

秋サケ漁は、町の経済を潤す最も大切な資

源であり、不漁の原因が特定されない中で確実・有効な対策が見いだせない状況ではあるが、漁獲量の維持・安定のためには、何と云っても資源造成のための親魚の確保、健康で元気な稚魚づくりが重要である。

一方、ホタテ漁については、年間計画では4200トンの生産計画となっているが、夏繰業が終えた段階で、漁獲量が昨年と同程度の3575トン（昨年は、3043トン）と年間計画の85%の数量となり、11月29日から、秋の繰業が始まっているので、生産計画が達成されることを期待する。

今後とも、目標である年間漁獲8000トン体制の確立に向けて、その資源づくりに取り組んでいく必要がある。



ホタテの水揚げの様子

次に水産加工業であるが、平成20年からの連続した秋サケの不漁に加え、ロシアトロール船による乱獲、本年からのロシア200海里内でのサケ・マス流し網漁禁止の影響により、ますます加工原料の不足が深刻となっている。

また、燃料価格は安定傾向にあるが、トラック運転者の労働時間規制強化によるコスト増、加工資材の高止まりなどのほか、加工従業員の確保が大きな課

題となっており、水産加工業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、加えて、台風・低気圧による工場・設備・取水施設などの破損防止対策、特に取水施設については抜本的な対策が必要となっている。

このような、大変厳しい環境にありながらも、それぞれの加工場におかれては、懸命な経営努力をされている。

町としても、平成26年度から3か年計画で「標準ブランドづくり事業」により、活メ普及対策、付加価値向上対策、魚食普及対策など、水産物・水産加工品のブランド力のアップに努めており、水産加工業者を対象として、地場産品の販路拡大を目的とした商談展示会や、水産加工機器の展示会への参加経費の助

成制度を創設し、支援しているところである。本町の水産業は、このように大変厳しい一年で終わろうとしているが、来たるべき新し

い年には、浜の漁業関係者や水産加工業者の皆さんの笑顔が見られるような一年になることを切に願うものである。

久留米大学主任教授来町 久留米大学への訪問

本町への久留米大学医学部からの医師派遣は、平成元年に外科学講座から始まったが、3代目の主任教授となる、赤木由人先生が、去る9月23日、「教育関連診療科」である標津病院に主任教授就任後、初めての現状視察のため来町。

また、10月6日には内科学講座の星野友昭主任教授が来町され、派遣医師との懇談や*カンファレンスが行われた。

また、本年も昨年同



赤木主任教授(右)によるカンファレンス

様11月7日から10日の旅程で、私と田中議長、大野院長、事務長の4人で、教育関連診療科として位置づけを頂いている、久留米大学医学部の内科学講座

及び外科学講座の主任教授を訪問し、本町への医師派遣のお願いをして来たところ、本町への医師派遣については、引き続きご理解を得て、来年度以降も派遣頂けることになった。

*カンファレンス
「conference」
学術的な会議や研究会。特に医師たちによる症例についての検討会。カンファレンスともいう。

ふるさと納税

ふるさと納税については、平成27年度から町特産品の返礼を開始し、本年度からは、直接申込みに加え、インターネット上のポータルサイトを活用し、寄附者の利便性に配慮したクレジット決済による納税を実施している。

平成20年から昨年度までの納税額は、毎年200万円から300



養成講座の様子(12月9日開催)

万円程度であったが、12月9日現在の速報値で、クレジット決済・直接申込みを合わせて4630万円、件数で3200件となっている。

返礼品においては、水産品、加工肉などが売れ筋となっているが、秋サケの不漁により、特に人気の「いくら」などが品簿となっている状況である。

あんしんサポーターセンター開設

高齢者などの日常生活での困りごとを、町民が主体となるボランティアで支え合い、支援をしていくため、「標準町あんしんサポーターセンター」を12月12日に開設した。

このサポートセンターは、本年3月に策定した「標準町地域福祉計画」の最重要事業として位置づけていたもので、計画の実践に当たり、本年6月に組織した推進委員会において、社会福祉協議会や町内会、民生委員などと行政が密接に連携した協議を経て、この度の開設の運びとなったものである。

現在、高齢者などを支援していただくサポートは、既に30人ほどが登録されており、利用される高齢者からも、早速、4件の依頼を受けている状況である。

一般会計の補正予算

主なもの

(単位:千円)

項目	金額	内容
ふるさと応援基金積立金	48,238	返礼品の代金、送料及びポータルサイト利用料の追加
冬の生活支援特別対策事業(福祉灯油特別助成)	1,950	対象380世帯(住民税非課税の高齢者世帯等)、助成額5,000円(商品券)/1世帯
新規就農研修生宿泊研修等施設整備事業	25,300	第2つどーる建設費補助金(地域づくり交付金内示による。間接補助)
乳牛哺育育成センター建設支援事業	300,000	農協子会社の(株)グリーンランド標準津が整備するトド山地区及び崎無異地区哺育・育成センター施設整備費の国庫補助等を除く、自己負担額の2分の1相当額への支援
畜産・酪農収益力強化整備等特別事業補助金	458,091	農協子会社の(株)グリーンランド標準津が整備するトド山地区及び崎無異地区哺育・育成センター施設整備に対する補助金
道営草地整備改良事業負担金	11,750	道営草地整備改良事業(草地畜産基盤整備事業:トド山地区公共牧場整備事業)の草地・施設整備事業費に係る受益者負担金
トド山地区公共牧場整備事業補助金	5,875	道営草地整備改良事業(草地畜産基盤整備事業:トド山地区公共牧場整備事業)に係る受益者(標準町農協)負担分の2分の1補助
海岸流木処理対策事業	2,484	8月の台風等大雨災害による海岸流木処理経費の追加
河川等災害復旧工事	11,231	8月17日以降の台風等の大雨による河川災害復旧費の追加

意見書

○「全国規模の総合的なアイヌ政策の根拠となる新たな法律」の早期制度を求める意見書

提出者

南 憲治 議員

○地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書

提出者

石橋 昌幸 議員

○大雨災害に関する意見書

提出者

山崎 英司 議員

○JR北海道への経営支援を求める意見書

提出者

山崎 英司 議員

一般質問

町政のそこが聞きたい

平成28年第4回定例会(12月14日)で4議員が一般質問をしました。
質問項目とその内容を要約して掲載します。

木下 孝 議員

6ページ

- 金澤町政の **4期目** への所信を質す

金澤瑛町長：平成29年6月23日任期満了

金澤町政の
継続要望は
衆目の一致
するところ



写真
月刊
新根室
1月号

4選出馬に関して答弁する金澤町長

南 憲 治 議員

7ページ

- 標津町内河川の治水及び防災対策の強化は？
- 標津町内西3丁目沿いの排水路の対策は？
- 崎無異の「一般廃棄物最終処分場」の今後の対応は？



8月21日 冠水した道道川北-茶志骨線(863号)
(標津町南1条西4丁目)付近

吉田 智 議員

8ページ

- エビデンス(科学的根拠)に基づく政策形成^{※1} **EBP**の導入を!

参考資料1

※1 EBP: (Evidence Based Policy) 科学的根拠に基づく政策形成

- 能動的な「読書」の推進で^{※2} **語彙力**の向上を!

参考資料2

※2 語彙: (言語体系・分野・作品等)で使われる単語全体。ボキャブラリー(vocabulary)

小川 悠 治 議員

9ページ

平成30年度、国民健康保険の運営主体が都道府県に移管

- 国民健康保険が町から道に移管
モデル世帯で2万200円の増となるが
- 総合的見地から町民医療負担の軽減を!

▼国民健康保険 [national health insurance]

自営業者、農業者、5人未満の個人事業所の労働者、健康保険が適用されない非正規労働者、失業者、定年退職した無職者、外国人等が加入する医療保険。国民の約3割が加入。市町村が保健者となっている市町村国保と医師など同業者による国民健康保険組合がある。市町村国保は高齢者が多く医療費が高額となる一方、加入世帯の所得が低く、財政問題が深刻化しており、2018年度(平成30年度)に、運営主体が、都道府県に移管される。

社会保障給付費の部門別推移



●資料: 国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」

金澤町政の4期目への

6月任期満了

所信を質す



木下 孝 議員

問 小田桐町政より繋いで来た金澤町政は、安定した財政基盤の下、ふるさと新生プラン・ステップⅡに、政策パッケージと総合戦略を連結し、ステップⅡの後半計画に厚みを持たせ、互換関係とし、ステップⅡを3年間延長し、H30年度までとした。
 参考1参照

今後の金澤町政の継続要望は、衆目の一致する所であるが、ここに、4期目への所信を質す。

ふるさと新生プラン・ステップⅡにおける「政策パッケージ」のイメージ

参考1



APR.2016 広報しべつ

町民5300人の衆知を集め
未来志向
 で4期目に挑む!

参考2
 参考3

答 後援会や町内の団体の強い要請もあり、四度町政を担うべく挑戦をさせていただきたい。
 財政面においては、安定期に入り、人口減少時代に挑戦する政策パッケージ等、町の未来に一定程度のレールを敷くことはできた。信念に基づいて推進している政策の流れを止めてはならない。
 町民5300人の衆知を集め、新しい扉を開く気概を持って、未来志向で挑みたい。

金澤町長4選出馬表明
 標準町議会 「新しい扉開く気概で」

次期町長選に4選を目指し、出馬を表明した金澤町長

釧路新聞

平成28年12月15日(木曜日)付

参考3

平成28年12月15日(木曜日)付 朝刊

北海道新聞

参考2

金沢・標準町長4選出馬表明 「政策の流れ止めない」

【標準】 定例町議会が14日開かれ、来年6月の任期満了に伴う町長選に金沢瑛町長(69)が4選を目指して立候補する意向を表明した。金沢町長は「後援会や町内の団体から強い要請もあり、再度町政を担わせてもらいたいと思う」と述べた。町長選への立候補表明は金沢町長が初めて。

金沢町長は一般質問で4期目の町政への所信をただした木下孝氏の質問に答え、「町内経済が厳しい中で、経験や安定が求められている。5300人の町民の衆知を集め、新しい扉を開くとの気概を持って務めた。信念に基づいて進めている政策の流れを止めてはならない」と意欲を語った。健康状態も問題が無いとしている。

金沢町長の任期は来年6月23日まで。選管は年明け以降に町長選の日程を決める。

標津町内河川の治水及び 防災対策の強化は？

今後の見極めが必要

問 今夏に上陸した台風等により、過去に例のない降水量をもたらした。
避難準備情報1回、避難勧告2回が発令された。

国の補助事業の採択が不可欠である。又、採択の要件として河川氾濫により人命と財産の被害実態が求められる。これが小規模の場合、

採択とはならない。この様な事から現状では大雨が降ったら、きめ細かいパトロールをし、現状の把握をし、迅速な住民避難などを心掛けていくという事で住民の不安を解消して参りたい。

答 これまでの常識を超えた降水量が、今後毎年のように常態化するのではという事が懸念される中で、温暖化、異常気象を予測し、町管理河川の治水及び防災対策の強化が必要と思われる。

問 8月の台風等により過去に例のない降水量のため、道々川北茶志骨線の一部、西3丁目の町道等が排水しきれず冠水し、歩行者・車両の通行に支障をきたした。将来の予測値を加えた見直し、対策が必要と思われる。

標津町内 西3丁目沿いの 排水路の対策は？ 当面は現状維持で

答 平成24年に西3丁目排水路処理調査をしている。

調査内容は今回の冠水に近い状態となった平成18年10月の大雨をモデルケースとして、原野の時と宅地での被害状況を比較した場合、水位の上昇は4mであり、これは標津川にポンプで送水する事により対応できる。

又、今後の増水をみても、今の状態で対応できると考えている。

崎無異の「一般廃棄物最終処分場」の 今後の対応は？

漁協、地元町内会と充分協議を

問 標津町字崎無異172番地1に所在する同施設は、平成15年6月に着工し平成16年7月に竣工した。パンフレット（施設概要）によると埋立期間は平成16年8月から平成31年7月までの15年間と明記されている。パンフレットどおり平成31年7月までとすると、残存期間は、あと2年7ヶ月であると理解するが、標津町にある施設としてこの先の対応は。

答 現在埋立率は50%程度であり、まだ使用可能である。

しかし処分場の命と云うのは、①防水シート・②水処理装置・③破砕機と、幾つかの要



一般廃棄物最終処分場埋立の現況 (H28.10.12現在)

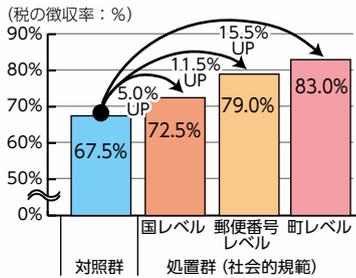
件がある。このいずれか一つ欠けても処分場として機能しない。

また、使用が可能となると延命させていくという事もあり、その事も含めて漁協、崎無異町内会等関係機関と充分協議をして参りたい。



南 憲治 議員

社会的規範を用いたことによる税の徴収率への影響



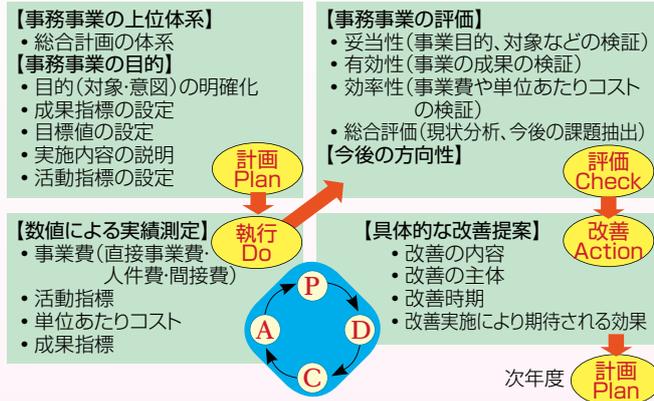
●納税の督促状に「あなたの周りの人達は既に納税を済ませています」と人々の社会的規範に訴求するメッセージを複数の処置群（国レベル・郵便番号レベル・街レベル）で発送し、対照群（通常通りの督促状のみ）と徴収率を比較（街レベルで15.5%向上）

参考資料3

問 イギリスにおいて、納税率を向上させた実証実験（参考資料3）の様なEBBP（参考資料1）を日本の行政に取り込む事は「行政の無謬性」を鑑みて、困難である事は承知の上で敢えて、
 ※2 地方自治法第2条14項に基づき、提案する。

Evidence-Based Policy (EBBP) の導入を!
エビデンス(科学的根拠)に基づく政策形成

事務事業評価: PDCAサイクル



参考資料4

※1 行政の無謬(むびゅう)性: 行政が予算に上げるものは、間違いのない確実なものでなければならないという前提

答 議員指摘の通り、日本の自治体においては、EBBPの導入は馴染み難い点が多い。自治体の行政評価で最も採用例の多い、「事務事業評価・PDCAサイクル」(参考資料4)を確立し、今後の方向性を見出し、具体的な改善の策定を優先。

PDCAサイクルの確立を優先

※2 地方自治法第2条14項: 地方公共団体は、その事務を処理するに当たっては最小の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない。

答 能動的な読書の推進で、語彙力の向上を!
教育長 今日、読解力・文字力・語彙力が求められている。今後の学習指導要領改訂の柱である「自分が自分で自分の言葉でプレゼンできる力」を育成する事を目指す。

問 児童・生徒の言文を通して、語彙力の豊かさが窺われる。当該の子供達は、読書好きでありその効果は、語彙力向上に結びつく事は、従前より語られている。
参考資料7 読解力・応用力育成上、語彙力が求められる。

問 参考資料5・6の児童・生徒の言文を通して、語彙力の豊かさが窺われる。当該の子供達は、読書好きでありその効果は、語彙力向上に結びつく事は、従前より語られている。
資料2の向上を! (参考資料2)



吉田 智 議員

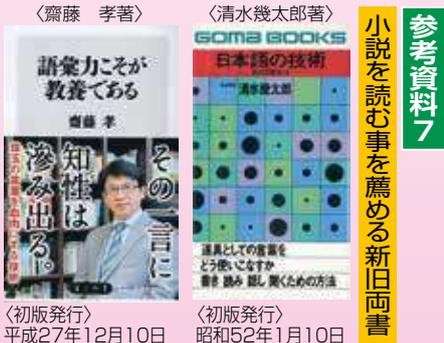
参考資料6

平成28年11月25日(金) 平成28年度 標津町教育実践発表研究会 (会場校: 川北小学校・川北中学校)

～特設授業の様子～



参考資料5
道新こども新聞 週刊まなぶん
第22回どうしん私とほくの小学生新聞グランプリ
 において川北小学校5年生3名が、最高賞の「まなぶん大賞」(受賞者)を受賞。
 (受賞者として受賞作品)



※3 ピリオバトル(biblio-battle): 知的書評合戦。参加者同士で本を紹介し合い最も読みたいと思う本(チャンプ本)を投票で決める催し。

川北小学校の児童達は他にも「道新会連合会賞」「UHB北海道文化放送賞」「アイデア賞」「佳作」4点を受賞し、その取組が評価され、「学校賞」も受賞

国民健康保険が町から道に移管

モデル世帯で2万2000円の増となるが

持続可能な医療制度に

問 平成30年度から国民健康保険が、町から道に移管される。道の保険料試算によると、

標津町の夫婦2人のモデル世帯で36万2300円となり、2万2000円の値上げとなるが、見解を伺う。

答 国は、財政基盤の安定化や保険料負担の公平化、医療費負担の適正化の推進など、持続可能な医療制度構築を目指している。道は、市町村ごとの医療水準



小川 悠治 議員

や地域差を考慮し急激な保険料上昇を回避するとしている。

標津町民の所得が比較的高く、道移管による納付金算出額が高くなった。標津町においては、**2万2000円(5.9%)増となる。**

※試算額(円)
試算対象は所得200万円(給与収入310万円相当)、夫婦2人のモデル世帯の1世帯当たりの国民健康保険料(年額)。
▲は、マイナス
●は、根室管内の自治体



総合的見地から

町民医療費負担の軽減を!

道の29年7月の決定を見てから

町の対応を

問 広域移管で小規模自治体のメリットもあるが、

共済組合や社会保険と違って国保加入者は高齢者や病弱な人、低所得者など経済弱者が誰でも加入できる制度。そのため財政基盤は弱いが病院受診率が高く、高額な保険料負担とならざるを得ない。道への移管で、町独自の財政支援も難しくなる。

また、経済弱者・交通弱者が多い国保加入者にとって医療機関が遠方になると通院方法、時間、関連費用などさらに重い負担となってくる。軽い症状のうち

に病気を抑える身近な医療体制としての町立病院の維持確保は個々の町民の医療費負担軽減となって大きく関わってくる。国保料・診療費など総合的見地で町民個々の負担を抑えて頂きたい。

答 本町の税率は、管内で2番目に低く抑えられていた。町民の所得が比較的高く、道移管による納付金算出額が高くなった。対応については、激変緩和策などまだ未確定要素があることから、29年7月の本算定結果をみてから町の対応を決めたい。

表 北海道新聞 平成28年11月3日(木曜日)付 朝刊

釧路根室管内の国民健康保険料(年額)の変動

■保険料が上がる自治体

	2016年度(円)	※試算額(円)	増減率(%)
● 鶴居	25万6000	38万7500	51.4
● 別海	28万7000	34万8300	21.4
● 標茶	29万7000	35万6800	20.1
● 標津	34万2100	36万2300	5.9
● 厚岸	36万8000	36万8500	0.1

■保険料が下がる自治体

	2016年度(円)	※試算額(円)	増減率(%)
● 浜中	48万	36万4700	▲24.0
● 釧路町	43万2000	35万4400	▲18.0
● 白糠	43万800	36万2700	▲15.8
● 釧路	43万8400	39万9000	▲9.0
● 根室	40万3100	38万2300	▲5.2
● 中標津	37万800	35万1900	▲5.1
● 羅臼	37万6000	36万5100	▲2.9
● 弟子屈	36万5000	35万7700	▲2.0

決算審査特別委員会

平成28年10月17日～24日

決算審査報告

平成27年度の一般会計・8特別会計は10月17日から24日までの8日間、議長と議員選出監査委員を除く議員全員で構成する決算審査特別委員会（高橋幹雄委員長・吉田智副委員長）で慎重に審議され、理事者及び各課主査以上の職員が出席し、質疑終了後、会計ごとに討論・採決を行った。

決算審査特別委員会では、活発な質疑が行われ、委員会としては各会計とも原案どおり認定すべきものと決定した。

平成28年第4回定例会において、高橋委員長から委員会審査報告がなされ、各会計とも委員長報告のとおり全会一致で認定された。

議案番号	事 件 名
認定第1号	平成27年度標津町一般会計決算
認定第2号	平成27年度標津町国民健康保険特別会計（事業勘定）決算
認定第3号	平成27年度標津町国民健康保険特別会計（病院事業）決算
認定第4号	平成27年度標津町介護保険特別会計（事業勘定）決算
認定第5号	平成27年度標津町介護保険特別会計（サービス事業勘定）決算

議案番号	事 件 名
認定第6号	平成27年度標津町後期高齢者医療特別会計決算
認定第7号	平成27年度標津町簡易水道特別会計決算
認定第8号	平成27年度標津町下水道特別会計決算
認定第9号	平成27年度標津町金山地域休養施設等特別会計決算

委員会報告

委員会審査報告書には次の意見を付して、議長宛に提出した。

①毎年度、監査委員並びに決算審査特別委員会から指摘をされている公的収入金（各税、各保険料、各種使用料等）の収納の確保に万全を期さなければ、自主財源の確保や住民の公平負担を著しく損ねるなどの「観点から、徹底した対策・対応を講ずること。

特に国民健康保険税の滞納額は多額であることから、滞納者の解消と現年度収納率の向上対策になお一層の努力をすること。

②決算審査に当って最も力点を置かなければならない事は、予算が議決した趣旨と目的に従って適正且つ効率的に執行されたかどうか。それによって、どの様

に行政効果が発揮できたか。それから見て今後の行財政運営において、どのような改善工夫がなされるべきであるかという事である。

「何の事業に幾ら使ったのか」より、「何を達成したのか、それがどのような効果を生み、どのような成果を上げたのか、改善事項は：」に主眼を置き審査すべきである。（成果志向）

次年度以降は、「成果志向」の原点に立ち、特に「人口減少時代に挑戦する政策パッケージ」に関しては、「主要施策の成果等報告書」に基づいた決算説明を望む。

③地域振興の推進のため観光交流人口対策として、サーモンパーク内のトイレを早急に改修し、清潔で使いやすい観光トイレ（団体及びバリアフリー対応）の整備を行うこと。

平成27年度 まちの決算書

一般
会計

歳入 64億8,815万円

歳出 61億3,158万円

差引

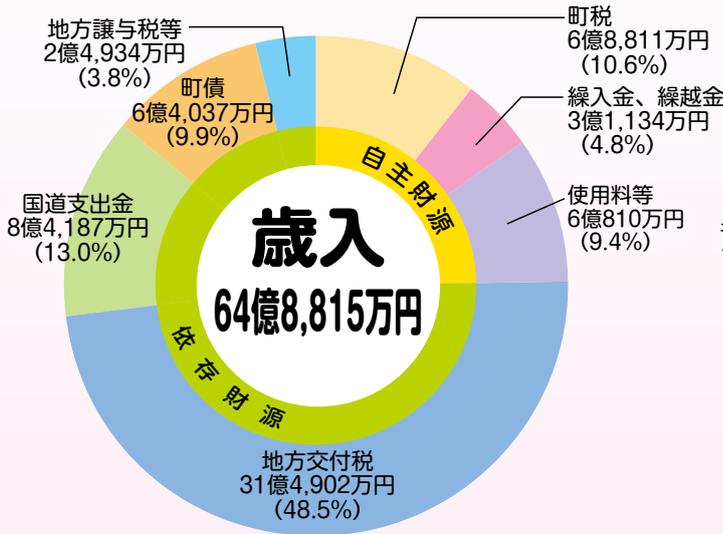
3億5,657万円

歳出

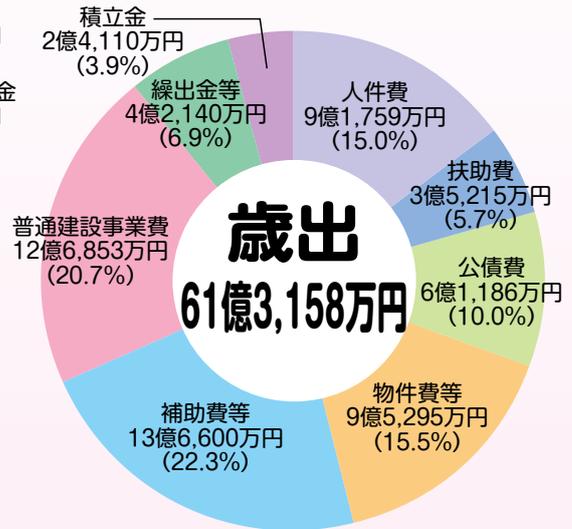
対前年比
3%増

～町民力・地域力・行政力の結集によるまちづくりの推進～

「財源別」内訳



「目的別」内訳



※自主財源 16億755万円 (24.8%)
 ※依存財源 48億8,060万円 (75.2%)

町債 = 借金

公債費 = 返済金

積立金 = 貯金

各会計 歳入・歳出決算総括表

町民1人当たりが負担する町税
12万9,197円
 【参考：札幌市は14万5,610円】

町民1人当たりが受けるサービス
11万2,220円
 【参考：札幌市は4万7,193円】

会計区分		歳入	歳出	差引
一般会計		64億8,815万円	61億3,158万円	3億5,657万円
特別会計	国民健康保険特別会計(事業勘定)	8億3,336万円	8億2,879万円	457万円
	介護保険特別会計(事業勘定)	4億1,712万円	3億8,067万円	3,645万円
	介護保険特別会計(サービス事業勘定)	2,334万円	2,334万円	0
	後期高齢者医療特別会計	1億510万円	1億490万円	20万円
	簡易水道特別会計	1億4,512万円	1億3,989万円	523万円
	下水道特別会計	2億9,461万円	2億9,461万円	0
	金山地域休養施設等特別会計	1,553万円	1,553万円	0
	特別会計合計	18億3,418万円	17億8,773万円	4,645万円
企業会計	国民健康保険特別会計(病院事業)	8億537万円	7億8,396万円	2,141万円
	資本的収支	6,025万円	6,025万円	0
	企業会計合計	8億6,562万円	8億4,421万円	2,141万円
総計		91億8,795万円	87億6,352万円	4億2,443万円

※各会計の端数処理により、合算と合計額が合わない場合があります。

常任委員会の動き

町内外行政視察研修

組織図と役割

●運営組織

- 社員 代表社員1名、副代表社員1名、社員4名
- 雇用 2名(事務員1名・調製配送作業1名)
- 調製配送 雇用職員及び出役で実施
- 収穫作業 コントラ組織に委託
- 役員会 代表者員1名及び部長6名(各部1名)

合同会社 酪援・緑

飼料部	1. 飼料メニューの検討 2. 給餌TMRの評価 3. TMR給餌による効果の分析
機械部	1. 収穫作業機械の維持・管理 2. 機械消耗品等の在庫管理 3. 不足機械の借用等調製
作業部	1. 圃場管理全般 2. 草地の評価・土壌分析・肥料の選定 3. 出役作業の調整
運送部	1. TMRの調製・配送 2. 配送スケジュールの設定 3. 調製・配送機械の維持・管理
管理部	1. TMR在庫調整 2. 年間作業スケジュールの計画 3. センター施設の修繕・維持・管理
会計部	1. TMRセンター経営全般 2. 飼料、資材の購入 3. 書類管理



合同会社 酪援・緑

- 代表社員 千葉 実
- 所在地 標津町字川北2639-2
- 参加農家
(戸数) 個人5戸(配送先6カ所)
(飼養頭数) 成牛:667頭 育成牛:574頭
(飼養基板) 草地543.17ha (TMR採草)
- 敷地面積 50,960㎡

総務

経済

★10月28日(金)
町内2施設の行政視察研修を実施した。

東川北地区の、町内3番目の^{※1}TMRセンターとなる施設の視察研修を行った。5万960平方メートルの広大な敷地内の各施設・主要機械に関して、千葉代表社員より、懇切丁寧なる説明を受けた。質疑応答後、代表社員・副代表社員・社員より、基幹道路となる町道川北東2号線の防雪対策に関して、強い要望を受けた。

※1 TMR(Total Mixed Rationsの略)とは、牛に必要な飼料を全て混合して均質なものにして与える餌の事。TMRセンターとは、混合した牛の餌を供給する給食センター。

※2 手火山造り

伝統製法・手火山造りとは

鯉節製造が盛んな焼津でも採用している企業は希な手作りこだわった製法で、直火で乾燥と焙乾(いぶす)という削り節でも最も難しい工程を時間や空気量・蒸気・温度、製品の色などを職人が直接、目で確認しながら総合的に調整して造り上げる製法です。

知床標津マルワ食品は、建設会社としての腕を活かし、本家本元特製のいぶし釜を寸分の狂いもなく再現した「手火山式焙乾炉」と秘伝の技術と同時に譲り受けた充分に使い込まれた木製セイロを使用し、鯉のうまみを最大限に引き出すと同時に、その身に独自の香ばしさを与える伝統製法を伝授することが出来ました。




鯉節完成までのストーリー 「なぜ建設会社がサケ節を？」

きっかけは、「美しい村標津産蕎麦作り研究会」にあります。同会は手打ち蕎麦で地域が元気になればと平成20年に設立以降、蕎麦の作付けから収穫まで農業者の仲間とおこなってきました。その中で「蕎麦つゆ」も造っていましたが「もっと美味しい蕎麦つゆは作れないか？」という発想から、標津の特産品である鯉でも節が出来ないのかと鯉節製造案が持ち上がりました。そこで静岡県焼津市の㈱ヤマ増田商店にカツオ節の伝統製法である「手火山造り製法」の技術を伝授して頂くことになりました。

知床標津マルワ食品

●代表 田村 正範

丸和信和建設株式会社
地域資源開発部

サケ節製造においては唯一無二の手法^{※2}「手火山造り」にこだわる田村代表に、第一工場と第二工場を案内され、製造工程の説明を受けた。この手法は、手間と時間を要する為、一度の製造量は限定されるが、独特の風味と香ばしさを醸し出す事ができ、50日間を掛けて造り上げたサケ節は、鯉節に比べて、甘みがあるのが特長。

文教

福祉

建設

11月27～30日

久留米大学を中心に「道外行政視察研修」を実施

福祉施設

●グループホーム夢咲^{ゆめさき}
 認知症対応型共同生活介護施設（佐賀市兵庫町）で、定員は9名×2ユニット（合計18名）

●両施設とも、経営的には、空室を無くすることと、運営にあたっては医療機関（病院）との連携が不可欠のこと。

●両施設とも、経営的には、空室を無くすることと、運営にあたっては医療機関（病院）との連携が不可欠のこと。

また、環境医学講座の石竹達也教授のご配慮により、志波直人病院長との懇談や、病院施設内を案内して頂き、大変有意義な表敬訪問となった。

久留米大学

外科学講座の赤木由人主任教授と内科学講座の星野友昭主任教授には、大変多忙な中、貴重な時間を割いて頂き懇談する事ができた。

吉野ヶ里歴史公園

佐賀県吉野ヶ里町にあり、主に弥生時代の生活、文化を保存し展示している公園。国営公園と県立公園を合わせて117haの面積。管理や施設保有は、国（国土交通省）、佐賀県、吉野ヶ里町の3者であるが、実際の運営は指定管理団体に委託している。年間入場者は70万人前後。



住宅型有料老人ホーム「ケアビレッジ夢咲」



グループホーム夢咲



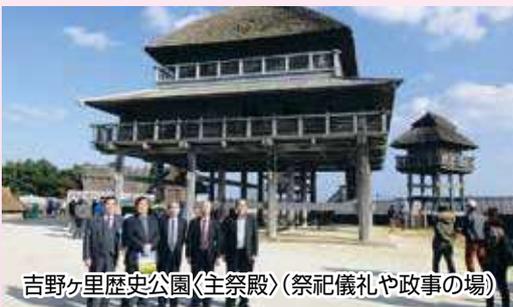
久留米大学正面玄関にて



星野友昭主任教授を囲んで



石竹達也教授とドクターヘリの前で



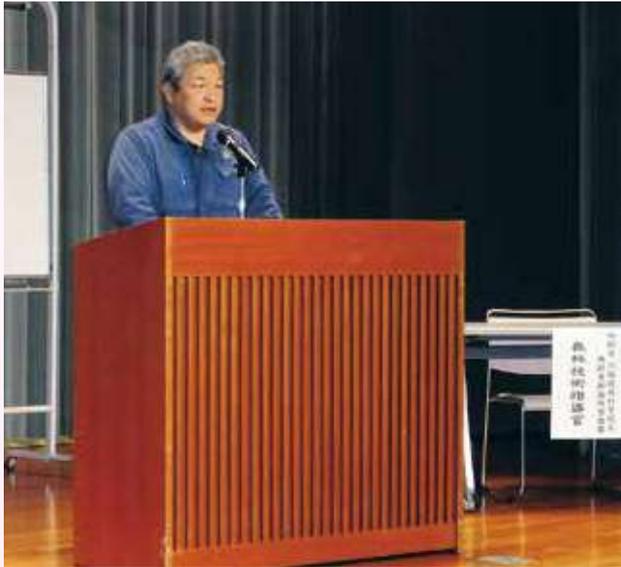
吉野ヶ里歴史公園〈主祭殿〉(祭祀儀礼や政事の場)



吉野ヶ里歴史公園〈竪穴式建物〉(王の住まい)

根室地方森林・林業・林産業活性化 推進議員連盟協議会(1市4町で構成)

10月31日 ～標津町内をフィールドに研習会～



共同施業団地について説明する根釧東部森林管理署
森林技術指導官 阿地克美氏

森林共同施業団地

効率的な森林経営を推進するため、民有林と国有林が一体となつて施業の集約化、効率的な路網整備及び効率

根室管内の市議会議員、町議会議員全員が加入している標記協議会の研習会が10月31日標津町を会場に53名が参加し、開催された。

的な作業システムへの移行により、低コスト化を目的として国有林と民有林が森林整備協定を締結し進めている。根室管内では、別海町、中標津町、標津町で実施されており、今回は標津町川北の北2線東2号付近の国有林・町有林・民有林の相互利用をしている箇所について視察した。

保全の森

標津町・標津町農業協同組合・標津漁業協同組合3者による標津町内の河川を良質な水質に保つていく取り組みが報告された。

●植樹活動

一次産業を担う者同士が、互いの産業を理解し、協力して「豊か



川北北4線西3号の焼ホタテ布設箇所を説明する
標津町農林課 中谷敏明主幹

な川と森を育む植樹活動」として実施した西北標津でのハルニレ、ミスナラ等の植樹による河畔林の造成。

●ホタテ焼成員を使用した浄化の取り組み

河川に蛇カゴと布団カゴを利用し、ホタテ焼成員を布設して河川の水質の浄化を図る。



西北標津の「保全の森」

研修会報告

根室町村議会議長会主催
議員研修会 10月22日

全国町村議会議長会主催
町村議会広報研修会 10月25日

根室町村議会議長会主催 議員研修会

当議会より8名参加

10月22日中標津町経済センターコミュニティセンターホールにおいて、根室町村議会議長会主催の議員研修会が開催された。

開催に先立ち自治功労者長彰が行われ中標津町議会議長の後藤一男氏が受彰された。

北海道町村議会議長会参与勢籙了三氏を講師に迎え『地方議会の使命と議会改革』と題し講演をして頂いた。

長年にわたる事務局長の経験を元にした意義のある講演であった。

その後新設された中標津町総合体育館、愛称『330°アリーナ』(さんさんまる)アリーナへ場所を移し、担当者より

施設の概要について説明を受けた。



「330°アリーナ」の説明を受ける議員連



講演中の勢籙了三氏

広報特別委員会

全国町村議会議長会主催
町村議会広報研修会

10月25日東京都シーエーバンパツハサボー(砂防会館)別館会議室において、全国議会広報研修会が開催された。

この研修会は全国町村議会議長会の主催で開催され、議会活動に対する住民の関心と理解を深めることが要請されていることに鑑み、議会広報実務担当者を対象にした研修及び意見交換の場を設け、議会広報の発展に資することを目的としている。

標津町からは吉田広報特別副委員長と山崎委員が出席した。

研修の内容は3部に分かれていて、1部は赤羽博之氏より『分かりやすく、伝わる広報誌の表記』と題して講義、2部は『月刊総務』編集長豊田健一



受賞広報誌を参照しながらの講義中の芳野政明氏

氏より『読まれて、伝わる議会広報誌ドラッカーに学ぶ【10のキーワード】』と題した講義、3部は議会広報サポーター芳野政明氏より『第30回広報コンクール紙面クリニック優秀賞受賞紙から学ぶ企画編集』と題し、受賞広報誌を参照しながらのアドバイスを受けた。

この研修をステップとしてさらに町民に親しんでもらえる誌面づくりを目指したい。

寄稿

『趣味はパートナー』

曙町 柏葉 賢次

私には趣味が結構ありまして、マラソン、ウォーキング、水泳、ハーモニカ、俳句、川柳、短歌、カラオケ等々、マラソンは二十代前半からやっており当時は地域の陸上大会や駅伝大会に出場しました。六十六才の今はマラソンよりもウォーキングに励んでいます。水泳も夏は月に数回やっています。何んでも良いからスポーツは健康の維持増進の為にやるべきです。次にハーモニカですが三十八才の時に始めもう三十年近くになります。昨年は町内の

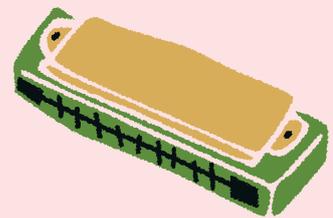
高齢者の集い等に招待頂き、懐かしい歌謡曲や学校唱歌等を演奏し少しなりとも喜んで頂けたかなと思っております。

吸ったり吹いたりハーモニカ演奏は心肺機能にも良いと思います。そして今一番力を入れているのが俳句、川柳、短歌です。

新聞にも毎週投稿しておりお陰様で、何十回か掲載して頂きました。人間て現金なもので、自分の句や歌が載れば嬉しく載らなければちょっと残念。なにはともあれ、この十七文字あるいは三十一文字の小さな文



学を今後も続けて行きたいと思えます。言葉は万人平等に散らばっています。それを拾い集めて一つの句や歌にする。何んとすばらしい事でしょう。皆さんもこの小さな文学をやってみてはいかがでしょう。最後にカラオケですが行きたいお店でほろ酔い気分です。ナツメロを歌っております。



このひとときも大変楽しいです。皆さんも何か趣味をお持ち下さい。生活に張りが出て来て健康の維持、増進にも役立つと思えます。

私も、もちろん趣味をパートナーに有意義な毎日を送って行きたいと思っております。趣味はパートナー……。



編集室



1月4日の新年交礼会で同じ席の参加者が言っていました。『今年の初日の出は標津の海の公園で迎えました。けっこう人もいたし、良かったですよ』気付かないでいる未利用観光スポットがまだあるのかなと感じました。一月には、久しぶりに標津町内を会場に結婚披露宴がありました。標津町をフィールドとした諸行事を計画実行している町民をたくさん知っていますし、その活動に敬意を持っています。今年も、もう一歩前へ!!

(大垣 勇)